

オペラ鑑賞会 第13回

追悼:八千草 薫 プッチーニ作 蝶々夫人

1955年 日本・イタリア共同制作オペラ映画

『蝶々夫人』は、有名なオペラとして世界各地で上演されているが、日本文化の描かれ方がめちゃくちゃで、映画を通じて、世界に正しい日本文化やこの作品の情景を伝えようという旨で制作された。そのため、日本家屋のセットはすべて日本から空輸して、現地（チネチッタ）で渡伊した日本人スタッフ（東宝のスタッフ）が組み立てた本格的なもの。衣装なども空輸した。もちろん、八千草薫もヒロイン像にふさわしい「日本人女性の象徴」としてのキャスティングである。



また、八千草と共に助演で出演した東郷晴子、伊吹友木子、鳳八千代、淀かほる、梓真弓、筑紫まり、朝日奈世志子ら当時の宝塚歌劇団生徒17名も渡伊した。

歌はイタリアのソプラノ歌手オリエッタ・モスクッチが歌い、八千草薫は歌詞を覚えて口を動かしているだけなのですが、まるでご本人が歌っているように自然そのもの。

オペラの舞台では描ききれない、庭や部屋の様子が物語をしっかりと支えてくれます。着物や調度品の美しさが「日本の情緒」をかもしだし、15歳の武士の娘蝶々さんの心を八千草薫が鮮やかに表現しています。



我孫子オーデオファン(AAFC) 分科会へのご案内（会員による自主講座）

日時 / 12月8日(日) 13:30~15:50

場所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 塚田 繁 参加自由・入場無料

問い合わせ / 090-5422-547 脇田 <http://www.aafc.jp/>